



10月26日(木)、八木健彦東京大学名誉教授が来校し、祖父である八木貞助伊那高等女学校(伊那弥生ヶ丘高校)3代校長(大正13年2月～昭和8年4月)が残した本校地学教室にある貴重な鉱物と在職中に植えた銀杏並木を観られました。きっかけは、本校の歴史を研究されている旧職員の山口通之先生が、本年、東京同窓会の講演において八木貞助校長の人物像に触れたことを健彦教授が知り、祖父の足跡をたどりたいとのことで、初めて訪問されました。

八 木健彦東京大学名誉教授は、北海道大学で地球物理学(地球の深部の構造)を研究され、東京大学で教鞭をとられました。祖父の貞助氏、父親の健三氏(伊那市で育ち、旧制伊那中学校を卒業後、東北大学へ)、健彦氏と三代にわたって地球科学を研究されました。

八 木貞助伊那高等女学校3代校長について、山口先生が書かれた上伊那郷土研究会の『伊那路』への寄稿から紹介します。貞助校長は上水内郡若槻村(現長野市)に生まれ、伊那高等女学校長として9年間在職しました。教育者としてはもとより、地質・地形などの自然科学の分野で多大な業績を残した著名な学者でした。研究の一端を毎年のように校友会誌『友垣』に寄稿し、生徒の学ぶ意欲を鼓舞し、学ぶにふさわしい教育環境整備に熱心に取り組みました。本校の正面から玄関までの銀杏並木は、貞助校長の植樹計画の一つでした。東京大学の門の並木に倣ったものとのことです。(左下の写真の木が銀杏)

右下の写真は、左側の貞助校長が校門前で撮影した写真を模して、同じ場所で本校写真部の生徒が健彦氏を撮影してくれたものです。生徒の粋な計らいです。



旧校舎の写真を見る八木健彦名誉教授(左から2人目)



鉱物標本を見る八木健彦名誉教授(左)



八木貞助3代校長校門前にて(昭和8年)



同じ位置にある現在の正門にて健彦名誉教授を本校写真部生徒が撮影